

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第49週 (12/5-12/11) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	49週	48週	47週	46週
小児科	18	17	18	18
眼科	5	5	4	5
インフルエンザ*	28	27	28	27
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	注意報	千葉市				千葉県
			12/5-12/11	11/28-12/4	11/21-11/27	11/14-11/20	11/28-12/4
			49週	48週	47週	46週	48週
小児科	RSウイルス感染症		6 0.33	6 0.35	0 0.00	3 0.17	26 0.19
	咽頭結膜熱		3 0.17	1 0.06	1 0.06	1 0.06	35 0.26
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		46 2.56	44 2.59	27 1.50	34 1.89	538 4.01
	感染性胃腸炎	○	357 19.83	293 17.24	264 14.67	294 16.33	2,712 20.24
	水痘		8 0.44	13 0.76	5 0.28	11 0.61	88 0.66
	手足口病		17 0.94	17 1.00	16 0.89	19 1.06	110 0.82
	伝染性紅斑		2 0.11	2 0.12	2 0.11	0 0.00	15 0.11
	突発性発しん		8 0.44	10 0.59	15 0.83	11 0.61	49 0.37
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.11	5 0.04
	流行性耳下腺炎		3 0.17	8 0.47	7 0.39	8 0.44	66 0.49
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○	108 3.86	93 3.44	37 1.32	17 0.63	638 2.98
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		4 0.80	1 0.20	0 0.00	1 0.20	24 0.71
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	9 1.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(4件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	IGRA検査	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	70歳代	細菌の検出及び薬剤耐性の確認
結核	男性	80歳代	画像診断				
アメーバ赤痢	男性	60歳代	病原体の検出	-	-	-	-

・第49週は、結核2件(225)、アメーバ赤痢1件(8)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(12)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第49週のコメント

<インフルエンザ> 前週より増加し3.86となった。過去10年の同時期と比べると多め。

<感染性胃腸炎> 前週より増加し19.83となった。過去10年の同時期と比べると多い。

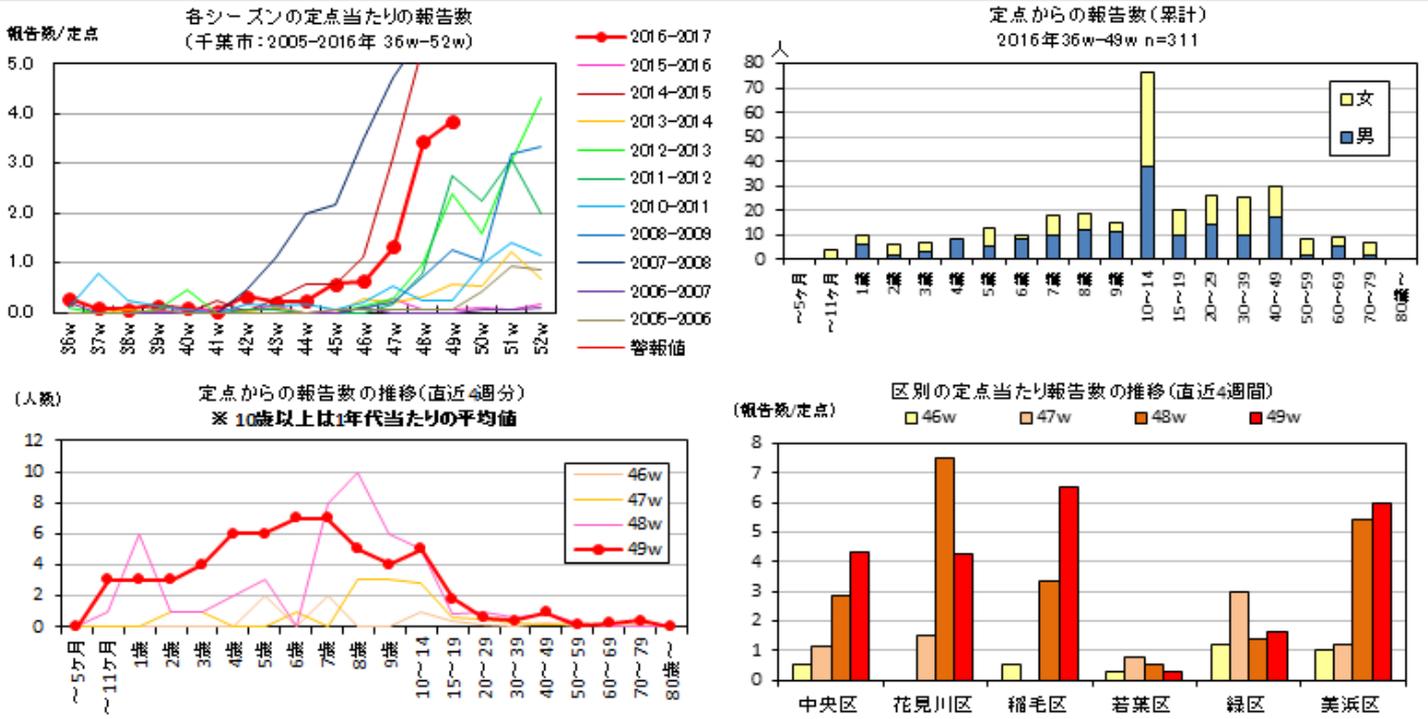
■ トピック ■

＜インフルエンザ＞

全国レベルの第48週は、過去9年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除き最多となっています。都道府県別では、沖縄県、栃木県、岩手県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の第49週は、前週より増加し3.86となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(6.5/定点)で最多となっており、同区の一年代あたりでは5歳で最も多く発生報告がありました。

今シーズンである2016年第36週から第49週までの累積報告数(n=311)によると、性別では男性が52.4%(163名)、女性が47.6%(148名)で、一年代当たりの年齢階級別では8歳(6.1%:19名)、7歳(5.8%:18名)、10歳代前半(4.9%:15.2名)の順に多くなっており、20歳未満は全体の66.2%、10歳未満は全体の35.4%となっています。

※2009-2010年のパンデミックは割愛しています。



＜感染性胃腸炎＞

全国レベルの第48週は過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、宮城県、山形県、三重県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の第49週は、前週より増加し19.83となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(30.0/定点)で流行発生警報開始基準値(20.0/定点)を上回り最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。また、稲毛区(25.7/定点)及び中央区(20.3/定点)でも流行発生警報開始基準値を上回っています。

今シーズンである2016年第36週から第49週までの累積報告数(n=2162)によると、性別では男性が53.9%(1166名)、女性が46.1%(996名)で、年齢階級別では4歳(13.5%:291名)、1歳(13.3%:288名)、5歳(10.6%:229名)の順に多くなっています。

